受賞者からのコメント

● 授業を行うにあたって工夫していること

担当の授業では病態のメカニズムや障害構築のプロセスをより的確に捉えられるよう解剖学や生理学，運動学などの基礎的知識との結びつきを強調していました．また，学外演習における介入場面のプレゼンテーションを通して，より実践的な場面を学生に提示すると共に，自身の臨床経験を交えることでセラピストの思考プロセスが少しでも伝わるよう心がけていました．

特に実技練習には多くの時間を割り当てました．相手の反応や動作を確認しあいながら，時には障害の模擬体験などを取り入れ，身体の介助や誘導などの技能の学習が促進されるよう工夫しておりました．

● 学生への要望・アドバイス等

授業ではレジメや資料を配布していますが，それはあくまでも「学習のヒント」に過ぎません．それ以上に，より多くの知識や技能が求められると思います．そして，これまで得た知識や技術をいかに“活用”し，更なる“知的好奇心”へと成長させるかだと思います．

そのための「気づき」が生まれることを期待しています．